

# 目次

## はじめに

■ 第1章 子どもの自殺の実態	1
1. 深刻な自殺の実態	1
2. 自殺率の国際比較	2
3. 年齢層別死因から見た自殺	2
4. 児童生徒の自殺	2
5. 自傷行為の実態	3
6. 子どもをとりまく死の問題	3
まとめ	

■ 第2章 自殺のサインと対応	5
1. 自殺の心理	5
2. 自殺の危険因子	5
3. 自殺直前のサイン	8
4. 対応の原則	10
5. 対応の留意点	10
6. 子どもに必要な自殺予防の知識	12
まとめ	

■ 第3章 自殺予防のための校内体制	14
1. 子どものSOSに気づく校内体制	14
2. 自殺予防のための教育相談体制	15
3. 危機対応のための校内体制	18
まとめ	

■ 第4章 自殺予防のための校外における連携	21
1. 学校	21
2. 家庭	22
3. 医療機関	22
4. 地域のさまざまな人々	23
まとめ	

■ 第5章 不幸にして自殺が起きてしまったときの対応	25
1. 自殺が起きた後の一般的な反応	25
2. 対応の原則	26
まとめ	
■ 第6章 自殺の危険の高い子どもへの対応事例	31
■ 第7章 自殺予防に関するQ & A	39
■ 参考資料	
1. 地域の関係機関	51
2. 推薦図書	53
3. 児童生徒の自殺予防に関する調査研究について	55

### このマニュアルについて

自殺予防の専門家や、この分野に経験豊富な教師が講師として、このマニュアルの内容を解説することができれば理想的ですが、まずは通読してみてください。自殺やその予防に関する自分の知識と、解説されている内容を対比させながら読むとよいでしょう。十分な時間がない場合は、もっとも重要な「第2章：自殺のサインと対応」を読んでください。学校では自殺の危険の高い子どもに出会うことがあります。適切な対応ができるかどうかは、子どもの生死に関わります。さらに、時間に余裕があれば、「第7章：自殺予防に関するQ&A」を読んでください。現場の教師が自殺予防について抱く一般的な質問とその答えをまとめてあります。そして、決して起きてほしくはないのですが、不幸にして自殺が生じてしまうことも現実にはありますので、第5章にも目を通しておいてください。なお、自殺が生じた時に、学校だけで対応するのが難しいこともあるので、外部の専門家に協力を要請することも検討してください。